

2009年度 みやぎ反核平和 (ピーチャリ) 自転車リレー

多くの職員の協力で大成功！

厚生協会だより



長町チームはランニング参加も



樋口実行委員長を先頭に。坂、泉チームゴール地点。



平和のうたごえ。「にわか平和合唱団」



おいしさ格別。バーベキューを囲む。

2009年7月21日
第 296 号

発行
(財)宮城厚生協会

〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人：長澤清光

6月14日(日) 井戸浜海岸公園冒険広場に宮城民医連各事業所から75名が集結しました。チャリダー22名(ランニング1名含む)がおそろいのピーチャリTシャツを着て「反核平和チャリンコリレー」のたすきをかけ、坂病院、泉病院、長町つばさ前から出発。県南医療生協からは「PEACE」のゼッケンをつけて長町から走って参加する職員も。

沿道や車から声援も

坂チームは10時病院玄関前から元気にスタート。沿道や車からときおり手を振り声援という光景もありました。

途中、高砂生協店で泉チームと合流。サイクリングロードも走りながら、再び一般道へ出て約20kmを走りアピールし、12時頃に無事「冒険広場」到着。

全国的な連帯運動に

広場では、すでにバーベキューが始まっており、参加者は次々とハシと取皿を持ちバ

ーベキューを囲み、各自胃袋を満たしていきます。

全員がそろったところで、樋口和東実行委員長(坂病院整形外科科長)があいさつ。「平和運動の年間行事の一つとして定着させ、全国的な連帯運動にしていきたい。」と述べました。チャリダーはじめ各事業所、JB、青年部、各サポーターなど、順に紹介されました。

にわか平和合唱団

充分お腹も満たし「平和のうたごえコーナー」。急遽その場でベテラン職員を中心に「にわか平和合唱団」結成。参加者全員で「青い空は」はじめ平和のうたごえを響かせました。

バーベキューのみ参加の職員の中にも、「来年はぜひ走りたい」という声も。



ピーチャリを通して、多くの職員が参加しそれぞれが「平和」の事を考えながら、楽しく交流し、平和をアピールできた一日でした。

4月の介護保険改定内容について、その影響、実態等を2回にわたり報告してもらいます。

新認定方式や負担増による サービス制限に、不満と怒り! ①

長町病院附属クリニック主任ケアマネジャー 花木 かよ子

今年度、介護保険制度関連では、①介護報酬改定、②介護保険料改定、③改正介護保険法5月1日施行(コムスン問題を受け、事業所への取締まり強化)、④認定制度改定(入り口で給付費をコントロールする本格的システム構築)、⑤高額医療合算介護サービス費の支給開始、という変化がありました。③も法的整備の課題で最重要項目ですが、字数制限がありますので、介護報酬改定と新認定制度について触れます。

介護報酬 改定内容と問題点

今回の介護報酬改定は、介護従事者の離職率の高さ、介護の担い手不足という介護現場の危機的状況、そして介護職員の生活していけない給料打開策(「介護従事者の処遇改善のための緊急特別対策」として、介護報酬改定率を3・0%(年約2300億円)上げると宣言しての改定)でした。

しかし、その内容は、基本報酬は据え置き、新たな加算が40項目以上設定され、一定

の基準を満たす事業所では〇〇加算として介護報酬を上積みできましたが、事業所ごと、そして月ごとに大きな変化が生まれる結果となりました。

過去2回の改定で5%近く引き下げ、保険からはずした項目もある中で、それにも満たない3%という改定率の低さ、利用者にとっては、利用料負担の増加により、利用抑制がいつそう拡がり、そして、要介護ごとに設定されている支給限度額がそのまま維持されたため、多額の自己負担発生につながるという問題点が残されました。

厚生協会及び 全国の状況

4月単月で居宅系プラス5・9%、施設はマイナス3・2%と併せて前年対比で増収となりました。しかし、利用者にとっては、負担増となり、ベッドや車椅子などの福祉用具を返却(デイの時だけデイのものを借りるなど)したり、訪問看護・介護(身体1と生活援助2などの基本単位がアップ)の利用回数を

制限するといった事態が生まれています。

全国的には生活支援に係る部分を優先し、リハビリや機能訓練を受けることを諦めたなどの事例も多かったようです。

介護分野の 環境整備は急務

私たちは、引き続き、自己責任を土台とした家族介護へ

の逆戻りでなく、憲法25条に基づき、応能負担原則・必要充足原則(負担は支払い能力に、給付は必要に応じて)を貫き、24時間365日の生活を支える「介護の社会化」の実現と、介護分野に働く職員がその専門性を高め、誇りを持って働くことができる環境整備が急務だと訴え続けていきます。

(次号に続く)



要介護4で一人暮らし。この家で暮らしたいという思いを訪問介護員が支えています。(筆者左側)



坂総合病院で「無料低額診療事業」開始

「いのちの平等」を掲げて

坂総合病院医療相談室 SW 本庄 美也子

「無料低額診療事業」は、生計困難な方が経済的な理由で必要な医療を受ける機会を制限されないよう、無料または低額料金で病院にかかることができる制度です。

社会福祉法第2条3項に基づき、都道府県等の認可を受

けた医療機関が実施できま

無料低額診療事業、再開の背景

坂総合病院で20数年ぶりにこの事業を再開した背景には、80年以降の相次ぐ社会保障の後退があります。無料だった70歳以上の高齢者と健保本人の医療費有料化、度重なる自己負担の引き上げ、国保改悪による保険証取り上げは多くのことから受診の機会を奪いました。そして、今、雇用不安と経済格差拡大で生活困窮者が増大し、社会問題の「貧困」は、より深刻な事態となつて国民生活を苦しめています。

民医連加盟の坂総合病院は「いのちの平等」を掲げて個室差額ベッド料を徴収せず、

SWによる生活相談の実施等を行なってきました。しかし、「不況で中途解雇された」「保険証がない」「病気で働けない」人たちが生活苦から受診を控え、重症になつてから救急車で運ばれてくる事態が後を絶ちません。

6月末で68人が利用、その状況は

こうした状況をなくしたいと始めた「無料低額診療事業」は、開始から3ヶ月経過し6月末で68人が利用しました。

「無料診療」の2人は無保険でした。「放浪」途中で具合が悪くなり救急搬入され1人は入院しました。

「低額診療」の8割が全額減免（自己負担なし）の対象でした。非課税であると同時に生活保護基準の120%以

下の収入ということですが。

高齢者独居又は夫婦世帯で年金収入のみの場合には大方該当するので、改めて暮らせない年金の実態が浮かんできたのと同時に、少ない年金からの介護保険料と後期高齢者医療保険料が天引きには非常に憤りを感じます。

家族との同居でも家庭内で疎外されている事例もありま

す。息子さん家族に収入はあつても無年金の父の医療費を出してくれず生活費も高齢の妻がパートで繋いでいました。

また、就労世帯の多くが非正規雇用で、男性の場合は正規雇用だった会社が倒産しこの状況に陥ったという人が数名いました。心疾患で救急搬入された男性も昨年12月に

会社が倒産。雇用保険が切れてから知人の紹介で土木工事の「貰い仕事」をしていましたが、治療が必要でこの先働ける見込みはありません。

我慢せず

「無料低額診療事業」を利用できるように

「無料低額診療事業」は生活が改善されるまでの一時的な措置ですから、生活保護受給に繋いだり、諸制度を活用して一緒に生活立て直しの援助するのが私たちSWの仕事です。

これまで、友の会会員さんや全入院患者さんへの案内等を行なってきましたが、まだ利用者は少なく自らまたは紹介での利用がありません。声をかけると大変な思いで治療費を工面している実態がありました。無理せず我慢せず「無料低額診療事業」を利用してほしいと思います。

大いに宣伝し「困ったら坂病院」「坂病院に行けば何とかなる」とあちこちで話題になるように、全職員が地域に打って出しましょう。

古川民主病院院長 就任のいそぎ

快適な船旅ができる事を信じ

奮闘していく

院長 吳 賢一



本年4月に古川民主病院院長に就任しましたので、簡単ながらご挨拶をさせていただきます。

他の多くの中小医療機関と同じく、当院も苦しい日々を過ごしております。現在の船体は船員共々、二十余年を経ただいぶくたびれてきました。が、新造船を建設する余裕はないので、補修でこまかしながら何とか航海している状況です。

しかし進路(介護療養型老人保健施設・有床診療所への転換など)は概ね決まったものの、海賊の襲撃(先見性に乏しい医療行政、診療・介護報酬の

削減など)、船員の高齢化・下船と十分な補充(医師不足)、重油(患者や入所者)不足と、難題が山積している状況です。

これに対し私たちは船員の食料を削ったり、燃料を節約するなどの対策を取っていますが、青息吐息で進んでいる状態です。こんな情勢なのに前院長は他の小型船に乗り換える始末で(まあその船もわが船と同様の問題を抱えています)、私は何ともしない時に船長に就任したものです。

幸い、副船長・航海長・機関長など、優秀な士官・船員が揃っており、いつか好天に恵まれて快適な船旅ができる事を信じて、沈没しないよう丸となって奮闘していく所存です。時々他の船からの協力を得たいと存じますので、その際はよろしくお願いたします。

中新田民主医院に赴任して

地域に受け入れられるよう

実践で答えを出す

院長 大窪 豊

外科系診療所の横山医院を発展継承する中新田民主医院は08年院長交代を迎えるにあたり、横山医師の年齢や体調、近隣にMRIを持つ整形外科診療所開設などの情勢を考慮し、内科系総合診療に転換する決意を表明し医師を公募しました。

しかし、県連の診療所医師育成の遅れを反映し、応募者が無かったことから古川民主病院外科の大窪を派遣する決定をしました。現地では、すでに手術室は面談室になっており、かつ外科手術を経験した看護師はおらず、小外科手術再開についても戸惑いを隠せませんでした。

また、古川民主病院にとっては外科の応援がもらえない中で外科診療の縮小が提起されました。外科の撤退は大崎市の救急体制に大きな影響を与え、場合によってぎりぎり運営されている2次輪番制度を崩壊させかねないものだったため、2単位の診療と標榜を残すことになりました。このことは逆に中新田に2単位の内科医による診療が残ることを意味し医師交代を

残念がる住民には歓迎されることでもありました。

この二束の草鞋を履いたような状態に対し横山医師は「腰の引けた対応であり、成功はどだい無理」との意見でした。

医師交代を肯定的に受け止めてもらうには、私がしっかりした医療をおこない、地域の人々から受け入れられるという実践で答えを出すしかない日々奮闘しています。



大窪院長(前列左から2番目)、スタッフと。

業務改善小集団活動 2回発表大会

発表参加の呼びかけ

第2回目の発表大会が8月29日に開催されます。

職場の業務チームとして、QCサークルとして、あるいはさまざまな手法を通して業務改善、医療の質向上、元気な職場づくりなどで活動している職員のみなさんの前向きな、ポトムアップの努力を交流し発展させていこうというものです。

あなたの職場で取り組んでいる小集団活動による業務改善のとりくみを発表してみませんか。きっと、みなさんのがんばりがさらにまわりを励まし、元気にさせるはずです。

1、申し込み締め切り

8月17日(月)までに別紙(サイボウズ掲示板にあります)に記入し、厚生協会本部平尾までお送り下さい。
(FAX: 022-361-1124、メールアドレス: hirao55@zmkk.org)

2、データ受付

データは「パワーポイント2000、2002、2003」のいずれかで作成願います。当日参加者に資料として配布いたしますので、CD-Rまたはフラッシュメモリに保存し、8月17日(月)までに平尾までお送り下さい。(データは発表会終了後、お返しいたします)

3、発表形式

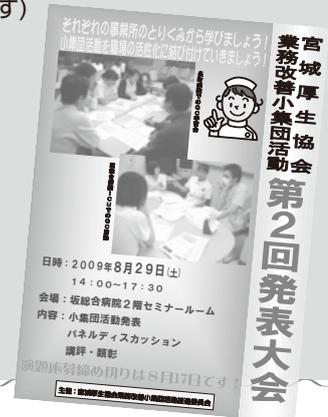
- ① 発表はパワーポイント、発表時間は7分間とします。
- ② パソコンは演台にてご自分で操作願います。

4、懸賞

当日審査を行ない、優秀発表3組を顕彰します。

5、審査委員(予定)

協会理事長 協会看護部長
各技術部門代表 坂病院事務局長
渡辺和子栗原中央病院総看護師長(講評と審査)



医療・介護事業を前進させる設備投資のため 協会債・基金への協力をお願いします

● 協会債(利率)

- ・ 1年債 0.35%
- ・ 2年債 0.4%
- ・ 3年債 0.6%
- ・ 5年債 0.8%
- ・ 積立方式(職員のみ)

● 基金

- ・ 通常 一〇1000円から
- ・ 積立方式(職員のみ) 一〇1000円から

※申込書は各事業所り友の会事務所または総務にあります。



4畳半の丸いちゃぶ台

中央検査室 今野恵子

「あの長い冬の恐怖も苦労も・・・春が来たのだ・・・」マイケル・ランドン主演の海外ドラマ「大草原の小さな家」の原作シリーズも作目「長い冬」のラストである。雪に閉ざされた鉄道が、半年ぶりに物資を運んできた時のように思わず涙がこぼれてしまった。

「赤毛のアン」シリーズをはじめ、児童文学がちょっとしたマイブームである。

憧れる夢の世界

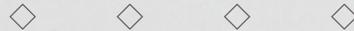
小さな借家の4畳半の茶の間に折りたたみの丸いちゃぶ台。ご飯にお味噌汁、いわしの丸干しがならぶ食卓が日常であった少女にとって、ギンガムチェックのテーブルクロスにパンとスープ、ベーコンのならぶ食卓は憧れる夢の世界であった。アンやセーラ・ハイジの世界でヒロインになったり、勝手に新たな登場人物になったりとアン顔負けの空想の世界にひたっていたのである。

作者たちと同じ思いに

児童文学は、子どものために書かれたものである。しかしそれは、決して子どもだけでなく、かつ子どもだった大人のものでもある。

ある時はひたすら楽しく、時にはワクワクドキドキさせながら、生きる勇気や本当に大切なものを決して押し付けがましくなくさりげなく、しかし確実に心にとどけてくれると最近とみに思うのは、老眼のため挿絵で目を休ませながらでないとお読むのがつらいせいだけではなく、年を重ねて、物語を通して様々なことを子どもたちに伝えようとした作者たちと同じ思いになっているせいかもしれない。

子どもの頃には考えもしなかったであろうマリラやキャロラインの気持ちが実によくわかるのである。



原作者のローラやモンゴメリ、スピリもまた、夫とともに家族を守り、地域の女性たちと町や村の発展に尽くし、おしゃべりやお祭りを楽しみお市井の女性であったのであろう。

原点はここにあったかも

ひよんなことから活動に関わるようになった「母親運動」や「国際女性デー」。微力ながら続けている、もしかするとここにあったのかもしれない。だって、憧れつづけてきたパンとスープがならぶテーブルは、西洋のちゃぶ台だったのだから。

